

新聞はじめました



この新聞タイトル《宇治脳卒中リハビより》は、病院名と日々の暮らしを表す「びより」を組み合わせています。病院名に「宇治」がついているのは、地域との結びつきを大切にしたい思いから。「びより」には皆さまの日常生活が穏やかで心地よいものでありますようにと願いを込めていました。今後は病院の取組みや、お役立ち情報を発信してまいります。どうぞ楽しんでお読みいただければ幸いです。



医療法人せいふう会
宇治脳卒中リハビリテーション病院
病院長 羽渕 義純

病院長 羽渕義純の想い

当院は2023年7月に、この宇治市に回復期リハビリテーションに特化した新しい病院として開院しました。その後当院の基本的な姿勢を近隣の急性期病院に理解していただき、多くの急性期治療後の患者さまのリハビリテーションの依頼をいただきてきました。

患者さまからいたたく声で特に多く寄せられるのが「看護師さんやリハビリテーションのスタッフの方がとても優しい」というありがたい言葉です。これは看護・リハビリ部門が患者さまに寄り添った治療をしてくれているということに加えて、地域連携室をはじめその他の部門が協力して患者さ

まの要望に答えるように努力してくれている結果と考えています。今後もこうした病院の姿勢を育てていきたいと考えております。もう一つリハビリテーションに関わってよかったですと感じるのは、退院される際に、患者さまとそのご家族が「この病院に来てよかったです、こんなに元気になるとは思ってもいなかつた」というお言葉をかけていただけることです。

こうした言葉こそ私たち医療者としては至福の言葉であり、できる限り多くの患者さまからこの言葉をいただけるように職員一同努力を重ねてまいります。

在宅復帰を支える 3本柱



入院時のリハビリテーションはもちろん、退院されてからもおこなっている患者さまへのサポートを紹介します。



▲ MELT²でのリハビリの様子

1.

退院後の「不安」を「安心」に変える 回復期リハビリテーション

入院中のリハビリを担うリハビリテーション部は、京都南地域最大規模となる約80名のセラピストが一丸となり、365日体制で患者さまの「いつもの暮らし」の再建へ尽力しています。脳卒中リハビリに特化した最新機器に加え、ご自宅での生活を想定した実践的な練習を積極的に取り入れ、患者さまにあわせたオーダーメイドのリハビリを提供しています。また医師・看護師など、多職種が密に連携し、チーム医療体制で質の高い専門医療を実現しています。

2. 自宅など「安心な環境」で 病院のような医療サポート

「訪問看護ステーションゆりかご」では、退院後の医療サポートを通じて、病気や障がいを抱えながらも住み慣れたご自宅で安心して暮らしていただけるよう支援しています。主治医と連携をとり、健康管理・リハビリ・生活介助・医療処置など、患者さまの状態に応じた柔軟なサービスを、多職種が連携しながら提供。自分らしい暮らしの実現をお手伝いします。

訪問エリアは、宇治市・城陽市・久御山町を中心に対応しています。



▲訪問看護ステーションゆりかごのスタッフ



▲ 訪問リハビリで歩行訓練をする様子

3.

ご自宅での「できる」に寄り添う 訪問リハビリテーション

訪問リハビリは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった各分野の専門スタッフが、利用者さまの生活の場へ直接伺い「できる」を増やすオーダーメイドのリハビリを提供しています。お一人おひとりの生活課題に深く寄り添い、安心して在宅生活を送れるよう力強く支援いたします。また、ご家族に向けた介護の提案・アドバイスも行っています。

自分自身で
好きなものが選べる
昼食バイキング！

食事を楽しんでいただくため、6月は小鉢(たこ焼きやケーキなど)、8月は主食(ドリアやチャーハンなど)のバイキングを開催！



選べる楽しさに「病院で体験できると思わなかった!」「うれし涙がでた」との声も。ご家族も一緒に参加いただき、皆さまに喜んでいただけたと思います。次回もどうぞ期待ください!」

学年科上り

まは検尿カップの底に丸の模様があるのはごですか。
はただの模様ではなくんとした理由があります。
な尿は透明なので三重はっきり見えますが、細菌や白血球が多く混
ていると濁るため三重ぼやけてしまいます。
り尿の濁りを調べるた
模様がついているのです。
見ることも検査の重要
見の一つなのです

検査科より